

パラ卓球

こんにちは！国際交流員のスティーブン・キヤーネルです。今日はパラリンピックの種目である卓球を紹介したいと思います。

卓球はテニスの代わりに室内でできるスポーツとして発明されました。テニスのように、ラケットを使いボールを打ち合うスポーツです。テーブルでプレーするので「テーブルテニス」と呼ばれていますが、「ピンポン」とも呼ばれます。

長さ 2.74m、幅 1.525mの台でプレーします。ボールは直径 40 mmのプラスチック製ボールです。ラケットにラバーがついており、このラバーでボールの回転をコントロールすることができます。ボールの跳ねる方向をコントロールすることで、相手は打ち返すのがとても難しくなります。

卓球はオリンピックでもパラリンピックでも行われています。パラリンピックでは 1960 年の第一回パラリンピックから行われ、オリンピックでは 1988 年のソウルオリンピックから正式種目になっています。



パラリンピックの卓球は障がいのタイプと重さによる 11 クラスに分かれています。クラス 1-5 は車いすクラス、6-10 は立位、クラス 11 は知的障害のクラスです。パラリンピック卓球のルールはオリンピック卓球とほぼ同じですが、障害により、ルールに従うことが出来ない場合があり、その場合は特例ルールを作ることもでき

5回パラリンピック金メダリストであるクラス 10 のナタリ

ア・パルティカ選手はオリンピックにも 3 回出場しています

¹ 画像 : Gael Marziou's [CC BY 2.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by/2.0>)]

ます。ラケットの持ち方も異なります。例えば、腕がないイブラヒム・ハマト選手は口でラケットを持ちます。

クラス7の世界ランキング7位である八木克勝という選手がいます。八木選手は豊橋市の出身です。八木選手は先天性両橈骨欠損症（せんてんせいりょうとうこつけっそんしょう）という病を患います。橈骨欠損とは手首が動かなくなったり手が短くなってしまふ障がいです。八木選手は国際クラス別大会で6回優勝しています。パラリンピック出場を目指している八木選手は今のランキングのままなら出場することができます。

現在パラリンピック出場を決めている日本人は一人います。クラス11の浅野俊選手です。浅野選手は2019年ITTFアジアパラチャンピオンシップでクラス11を優勝しパラリンピック出場を決めました。

卓球と言えば中国を思い浮かべますが、ブラジルとドイツもかなり強いです。ドイツにクラス3のランキング1位であるトマス・シュミットバーガー選手がいます。私の母国のアメリカにも出場権を手に入れた選手が一人います。

パラ卓球の選手は技と能力がすごいです。卓球のルールが簡単なので「ピンポンピンポン」と打ち合う音を聞きながら気楽に観ることができます。皆さん、東京2020パラリンピックに出場する卓球選手を応援しましょう！



クラス8パラ卓球のマッカー・マルコ選手